



## 猛威を振るう山火事

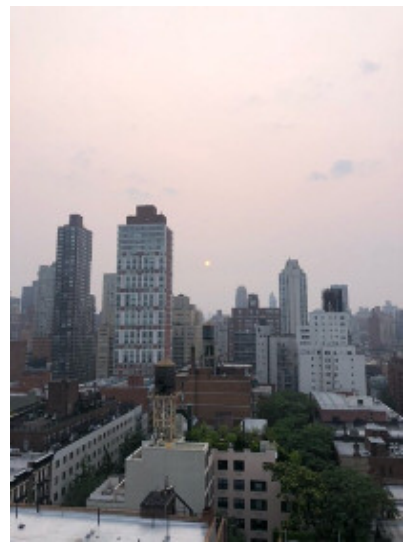
北陸銀行 国際部  
 ニューヨーク駐在員事務所  
 内間 洋子

この夏マンハッタンでは、晴天にもかかわらず、煙ったように視界が悪く、太陽は赤く街の空気全体がうっすらとオレンジ色という異様な光景がみられました。遙かかなた西海岸オレゴン州の山火事の煙がジェット気流に乗り、4,829km離れた東海岸のニューヨーク州まで流れてきたための現象とのことでした（右写真）。

幸い数日後に雷雨が発生し、空気はきれいになりましたが、その2週間後、今度はニューヨーク州北部に隣接するカナダ南部の山火事の煙が流れ込みました。長引けば市民の健康を損ねるとあって、西海岸やカナダの山火事はもはや“対岸の火事”などと無関心ではいられなくなってきました。

全米では今年1月から8月までの間に、昨年よりも5,500件も多い4万5000件近くの山火事が発生しています。カリフォルニア州でも、ワイン産地のナパ・ヴァレーを含む各地で昨年の5倍の面積が燃えています。乾燥した熱波のため火の拡大が速く、消火は不可能との判断から現在9つの国有林が閉鎖されています。

2008年に起きたカリフォルニア州のワイン産地一帯での大規模な山火事以来、葡萄の表皮が煙で汚染され、ワインの風味が損なわれる“Smoke taint”という言葉が定着しており、特に醸造過程で皮も使用する赤ワインへの被害は甚大です。2019年のカリフォルニア州からの赤葡萄の出荷総額は約912億円でしたが、2020年は大火災の影響で422億円にまで落ち込みました。たとえ火災が直接葡萄園に及ばなくても、遠方から流れてくる煙にさらされた赤葡萄は商品価値を失うのだそうです。皮を使わない白ワイン用葡萄栽培に転換するのも一案ですが、赤ワイン用葡萄、特にカベルネ・ソーヴィニオンは、白ワイン用葡萄の2倍以上の値段（1トン約70万円）で取り引きされるとあって、なかなか決断し難いようです。



【山火事の煙でうっすらオレンジ色に染まるマンハッタン上空：筆者撮影】

度重なる山火事で火災保険料も高騰し、ある葡萄園では年間保険料が1億円以上となっています。さらに追い打ちをかけるのが、近年の50°Cにも達する異常高温による水不足です。ナパ・ヴァレー近郊の貯水池が干上がり、葡萄園主達は下水処理場で濾過殺菌された水を買付けに、大型タンク車を日に何度も走らせる事態が起きています。今後、近隣住民の生活水不足が深刻化すれば、処理場の水は彼らに優先的に分配されるため、葡萄園は栽培不能に陥る可能性もあるそうです。

また、遠方まで到達する山火事の煙は、観光業にも影響を与えています。サンフランシスコ市のゴールデンゲートブリッジは煙にかすみ、ワシントン州では有名ホテルが閉鎖となりました。西海岸北部の年間観光収益は平常約5兆6,000億円ですが、コロナ感染拡大と山火事の影響でダメージが深刻化しています。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。  
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
((株)人材情報センター内)  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp